

SDGs って、何？

SDGs とは、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。「エス・ディー・ジーズ」と発音し、最後の「Gs」は Goals (ゴールズ) の略です。

2015 年 9 月に、国連サミットで採択された 17 の目標で、国連に加盟する 193 か国が、2016 年から 2030 年までの 15 年間で達成するべく掲げられました。17 の目標のもとには、169 のターゲットとさらに 232 の指標があり、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。たとえば、「1. 貧困をなくそう」、「2. 飢餓をゼロに」、「4. 質の高い教育をみんなに」、「5. ジェンダー平等を実現しよう」などがあります。

SDGs の前には、2000 年 9 月に国連ミレニアム・サミットで採択された「国連ミレニアム宣言」をもとにまとめられた、MDGs「Millennium Development Goals (ミレニアム開発目標)」がありました。これは 2001 年から 2015 年までの達成目標で、「極度の貧困と飢餓の撲滅」など、達成すべき 8 つの目標、21 のターゲット、60 の指標からなるものでした。MDGs では、発展途上国の開発問題が中心で、先進国はそれを援助する立場でしたが、残念ながら未達成の課題も多く残され、引き続き対応が急務とされました。MDGs での反省をふまえ、SDGs は採択されたのです。

SDGs では、重要な課題に対して、先進国にも世界各国共通の目標に取り組んでいくことが求められています。そこで先進国も、途上国への援助だけでなく、経済・社会・環境にかかわるすべての共通課題に対し、目標を設定しています。すべての人類が取り組むべき課題として掲げられた目標は、その数を 17 に増やし、さらに包括的で普遍的 (ユニバーサル) なものとなりました。SDGs を通じて、豊かで活力ある未来をつくるため、日本もさまざまな取り組みを積極的に進めています。